

令和2年度 山城地方通級指導教室担当者会議

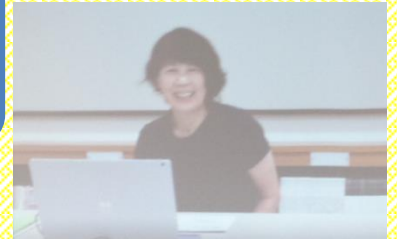
令和2年7月16日（木） 京都府総合教育センターにて

目的

発達障害を含む特別な支援が必要な児童生徒が増加する中、小・中学校における通級による指導を受ける児童生徒も年々増加している。そこで通級指導教室担当者として、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育的支援の充実について学ぶことにより、特別支援教育全体の充実と指導者の資質向上に資する。

講義

「特別支援教育における通級指導教室の役割と指導について」（動画）



児童生徒が、自分の持てる力を知り、小・中学校で学ぶ間に実感し、様々な体験をすることが大切。

通級担当として、自信と誇りを！

社会福祉法人福知山学園
福知山市児童発達支援センター

奥村 康枝 様

感想より

- ◆ 初めての通級担当者として、熱い思いと不安で始まりましたが、具体的な指導方法や通級の在り方を学ぶことができ、実践していきたいと思いました。
- ◆ 通級指導教室は、子どもが自信を付け、自己肯定感が育まれ、また自分を知り、必要なときには助けを求められることができる力を育む場所でありたいと思いました。
- ◆ 校内システム（校内組織）について、日々迷いや悩みがあるので、通級担当者としての立場や支援の在り方などを基本に戻り考える機会となりました。

～感想より、一部抜粋～



新型コロナウイルス感染症の影響により、講師の奥村康枝先生は、当日会場にいらしていただくことはできませんでしたが、事前に収録した講義を視聴しました。会場のスクリーンに、配付資料と奥村先生が話される様子の2画面を投影するなどの工夫をしました。

また、質問を事前に参加者から収集し回答するとともに、当日出された質問についても、後日、奥村先生よりお答えいただきました。

通級指導教室担当者は、様々な学級や他校に所属する子どもまで指導する存在であり、特別な支援を要する子どもの教育に対する関心を高め、そこで得た知見を広く地域全体に広げていただくことで、山城地方の特別支援教育が充実するよう期待しています。